

保健環境学実習

Practice in Health Environmental Science

1 単位 (必修) 2 年

梅野 真由美・准教授 / 保健学科 検査技術科学専攻 形態系検査学講座

富永 辰也・助教 / 保健学科 検査技術科学専攻 形態系検査学講座

【授業目的】健康に及ぼす生活上の因子について、身近な環境測定を通して理解を深めることを目的とする。

【授業概要】実習

【先行科目】『衛生学』(1.0), 『環境衛生学』(1.0), 『保健学』(1.0)

【関連科目】『衛生学』(0.5), 『環境衛生学』(0.5), 『保健学』(0.5)

【到達目標】身の回りの環境(空気, 水など)の測定を通して, 健康に及ぼす生活上の要因の理解を深めることを目標にする。

【授業計画】

1. 実習準備(空気試験, 物理的環境試験)と実習項目及び実習内容の解説を行う。
2. 身近な環境測定 ① 室内の気温, 湿度(気湿), 気流, 輻射温度, 不快指数の算出などを実習する。
3. 身近な環境測定 ② 感覚温度(E.T.)の算出(アスマン通風温湿度計, カタ寒暖計を用い, 乾球温度, 湿球温度, 気流を求め, 感覚温度図表を用い E.T.を算出する。
4. 身近な環境測定 ③ 騒音の測定。騒音計を用い, 時間率騒音レベルを求める。また, 等価騒音レベルとの比較を行う。照度の測定
5. 身近な環境測定 ④ 部屋の換気量の測定(二酸化炭素を指標とする)及び必要換気量の算出
6. 実習準備(水質試験)及び試薬の調製, 実習内容の解説
7. 水質検査(調製水) ① 亜硝酸性窒素
8. 水質検査(水道水) ② 残留塩素の測定(ジエチル-p-フェニレンジアミン(DPD)法)
9. 水質検査(水道水) ③ 総硬度の測定(EDTA法)
10. 水質検査(水道水) ④ フッ素の測定(ランタン・アリザリンコンプレクソン法)
11. 飲食物試験(飲料水) ① ビタミンCの定量
12. 実習レポートの提出

【成績評価】実習レポートと実習態度, 出席等で総合的に評価する。

【教科書】

- ◇ 自製のプリントを使用する。
- ◇ シンプル衛生公衆衛生学 鈴木庄亮 他(南江堂)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217799>

【連絡先】

⇒ 梅野 (088-633-9067, umeno@medsci.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 富永 (tatsuya@medsci.tokushima-u.ac.jp) MAIL